



かたぐい

学校教育目標

夢ふくらませ 心かがやく



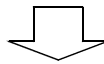
令和2年度
第42号

2020.12.25

地域の方々からたくさんのことを学びました。～地域ふれあい教室～

11月から12月にかけて、西明寺公民館さんのご支援のもと、地域ふれあい教室を実施しました。西明寺小学校では、子どもたちの豊かな学びにつなげるために様々な体験活動を取り入れています。体験活動には、次のような効果が期待できます。

- ①地域から学ぶ・社会から学ぶ
…地域のよさや魅力、地域の活力、あたたかさ等を感じることができる。
…地域の方々との対話を通して、コミュニケーション能力が高まる。
- ②子どもの「わかった」「おもしろい」を引き出し（「知」の獲得）、主体的な学びを促す。
- ③「見方・考え方」を刺激し、地域（社会）を見る目が深まってくる。
- ④新しい発見や豊かな発想につながり、次の学びや生活に生かそうとする原動力になる。



自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え・判断して行動し、
それぞれの思い描く社会の実現につなげる。（明日の仙北市や西明寺を担う人材に）

各学年の実態に応じて、地域の方々から学んだことで、子どもたちの充実感が高まり、心の変容も見られました。また、ご指導くださった方々から、とても真剣に取り組んでくれたので、指導した自分たちもうれしくなったという感想もいただきました。

教科書からは得ることができない、貴重な体験することができる活動を今後も積極的に取り入れていきたいと考えています。また、体験活動を行うにあたっては、保護者の方々から教わるような内容も考えられます。その際は、保護者の皆様方にも、講師としてご参加いただければと思います。その際は、よろしく願いいたします。

【6年：画家の山田美知男さんからお話を聞く・地元の先人の絵画に触れる】

11月2日に平福美術館で行いました。地元の画家山田美知男さんの個展を見るときともに、実際に山田さんから、絵についてのお話を聞きました。絵に込められた思いを聞くことにより、新たな絵の見方をすることができるようになりました。

また、地元が誇る秋田蘭画の小田野直武や日本画家、平福穂庵・百穂父子などの作品を見学し本物に触れることにより、先人の業績を知ることができました。



【5年：デジタルカメラで写真の撮り方を学ぶ】

11月5日に角館のみやまカメラ、新山仁さんを講師に招き、写真の撮り方教室を行いました。

子どもたちは、デジタルカメラの使い方や写真の撮り方を教わったあと、外に出て晩秋の風景や興味のあるものなど、様々な対象を被写体にして写真を撮っていました。

子どもたちが撮った写真は、被写体の切り取り方が斬新なものが多く、一人一人の感性の豊かさを感じました。子どもたちの思い切った発想に、講師の新山さんも驚き、感心していました。



【裏面に続く】

【4年：茶道に親しもう】

11月17日に松木内の門脇さん（他、お手伝い3名の方々）を講師に招き、茶道の体験をしました。

茶道の作法には、茶を点ててくれた人や次のお客様への配慮もあることを教わったあと、いよいよ実践編へ。初めて経験する抹茶のほろ苦さに難儀する子どももいましたが、全員が抹茶の味わいを実体験することができました。中には、茶を点てる側の体験をしたいと希望する子どももいて、その積極的な姿勢に、講師の門脇さんたちもうれしそうでした。



【3年：ヒップホップダンスを楽しもう】

12月14日に秋田市のダンススクール「イルスタジオ」の進藤さん（他、お手伝い1名の方）を講師に招き、ヒップホップダンスの体験をしました。

ダンスは、体育でも行いますが、ヒップホップダンスを本格的に体験する機会はなかなかないだけに、子どもたちも張り切って取り組みました。講師の進藤さんが分かりやすく教えてくださったこともあり、子どもたちは、みるみるうちに上達していきました。ダンスの楽しさを感じた子どもたちは、新しい発見に大満足でした。



【1・2年：折り紙で作品を作ろう】

12月11日に、今年も読み聞かせをしていただいている仙北市読み聞かせボランティア「ひまわりの会」の伊藤さん（他、お手伝い2名の方々）を講師に招き、折り紙を習いました。

2年生は、昨年度の経験を生かして、ていねいに折り紙をしていました。折り紙に集中する姿には頼もしさを感じました。

1年生は、今回が初めてということもあり、ちょっと難しかったかもしれませんが、教わっていくうちに折り方が理解できるようになり、次々と形を作り上げていました。

個々で作った折り紙を貼り合わせて、最後はクリスマスにぴったりの作品に仕上げることができました。

1・2年生にとっては難しい折り紙でしたが、あえてそのような課題に挑戦させることで、みんなで力を合わせて作り上げるという喜びを味わわせたいという講師の伊藤さんのお考え通り、出来上がった作品を見つめる子どもたちの目には、充実感が感じられました。

